

日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.40 雌阿寒岳(日本百名山 54/100)

『北海道の山を登る』、登山を始めた当初は考えもしなかったことですが、日本百名山を登ると決めた時から、北海道の大自然の中を登れるワクワク感と同時にヒグマの存在が頭から離れることはありませんでした。また、北海道へはいつものように車で移動するわけにもいかず、飛行機を使わなければならないため、登山スケジュールは飛行機の時間との戦いを覚悟する必要もありました。

とは言え、移動だけに関して言えば、飛行機にさえ乗ればあとは寝るだけ、アルプスに車を運転していく事を思えば、体力的には遥かに楽でちょっとした旅行気分も味わえます。さて、そんな北海道への登山ですが、福岡空港から新千歳空港まで直行便が飛んでいるおかげで、週末登山が可能です。

という事で今回のコラムは、はじめて北海道での登山を経験した雌阿寒岳(標高1,499m)を紹介しながら、その行程について少し掘り下げて書きたいと思います。

まず、北海道へ行くには航空会社を選ばなければなりません。大手航空会社も当然飛んでいるのですが、今回の登山ではLCCであるピーチ航空を選択しました。理由は3つ、1つ目の理由は単純に航空運賃が安いこと。時期や航空券取得のタイミングにもよりますが、往復3万円前後で可能です。この料金には20kgまでの荷物料金も含まれており、登山するには装備もあるのでこのプラン一択となります。単に週末観光だけでしたら、2万円もかからずに往復できてしまいます。但し、夏休みなどのハイシーズンは金額が上がるので、航空券取得のタイミング如何によっては、大手航空会社の方が安くなります。

また、LCCは安全面で不安と思われる方もいらっしゃると思いますが、まあその時はその時です。多少、足元が狭く、サービスがなくても単なる移動手段と割り切れば、まったく問題なしです。

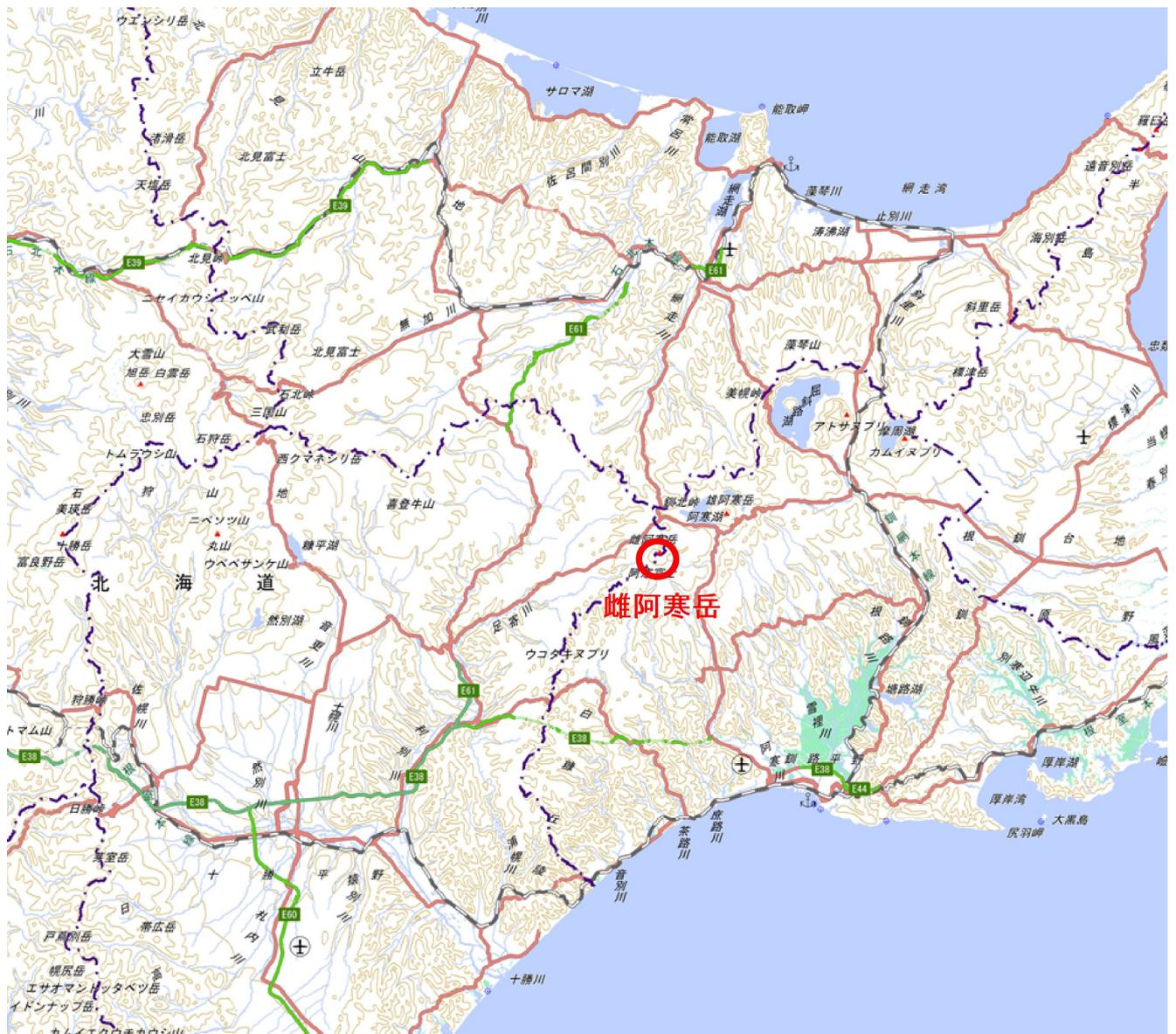


百名山 雌阿寒岳の山頂から見る雄阿寒岳とマリモで有名な阿寒湖

理由2つ目は、ピーチ航空の場合、先のプランを選択していれば、便の変更やキャンセルが自由自在、当然手数料は発生しますが、それを差し引いても大手航空会社の通常プランに比べれば、はるかに良心的です。キャンセルの場合、現金での返金はありませんが、その航空会社で使えるポイントで払い戻されます。これは本当にありがたい。登山は天気との戦いの側面もありますが、わざわざ天気の悪い日には登りたくないもの、無理して行くと遭難の危険もあり、それを回避する意味でも直前でキャンセルや変更ができ、お財布にも優しいのは嬉しい限りです。

理由3つ目は、直通便の戻りの時間です。大手航空会社はやはり力を持っていますので、一般の人が動きやすい時間を中心に運行していますが、LCCはちょっと不便な時間帯を飛んでいます。

実は、登山にはこれがあります。新千歳から福岡空港への戻りの直行便は、ピーチ航空が一番遅く、17時台に飛びます。新千歳空港の場合、レンタカーを借りる場所が結構離れていることから、空港からレンタカー会社のバスで移動する必要があり、また満タン返しが必要なのですが、ガソリンスタンドも離れています。これは成田空港も同じですが、一般的な地方空港に比べて時間的に面倒なのは事実です。という事で、土曜日に移動、日曜日の朝から登山、そして帰路ということ考えると、ある意味、ピーチ航空一択になってしまいます。1日目にたっぷり観光したい、2日目は適度に早く帰りたい、そんな場合はJALやANAなどの大手航空会社が良いと思います。



ヤママップ地図より転記

では、今回の遠征について報告します。

まず、雌阿寒岳へは、先にも記したように新千歳空港まで行き、そこからレンタカーを使用しました。道東や道央には女満別空港、中標津空港、釧路空港、帯広空港、旭川空港などありますが、ほとんどの空港が羽田便、もしくは新千歳空港、丘珠空港便です。

乗り継ぎ時間や自由度を考えた場合、知床半島の羅臼岳に行く際は女満別空港を使うかもしれませんが、基本的には旅の楽しさも含めて、私は新千歳空港からレンタカー一択です。

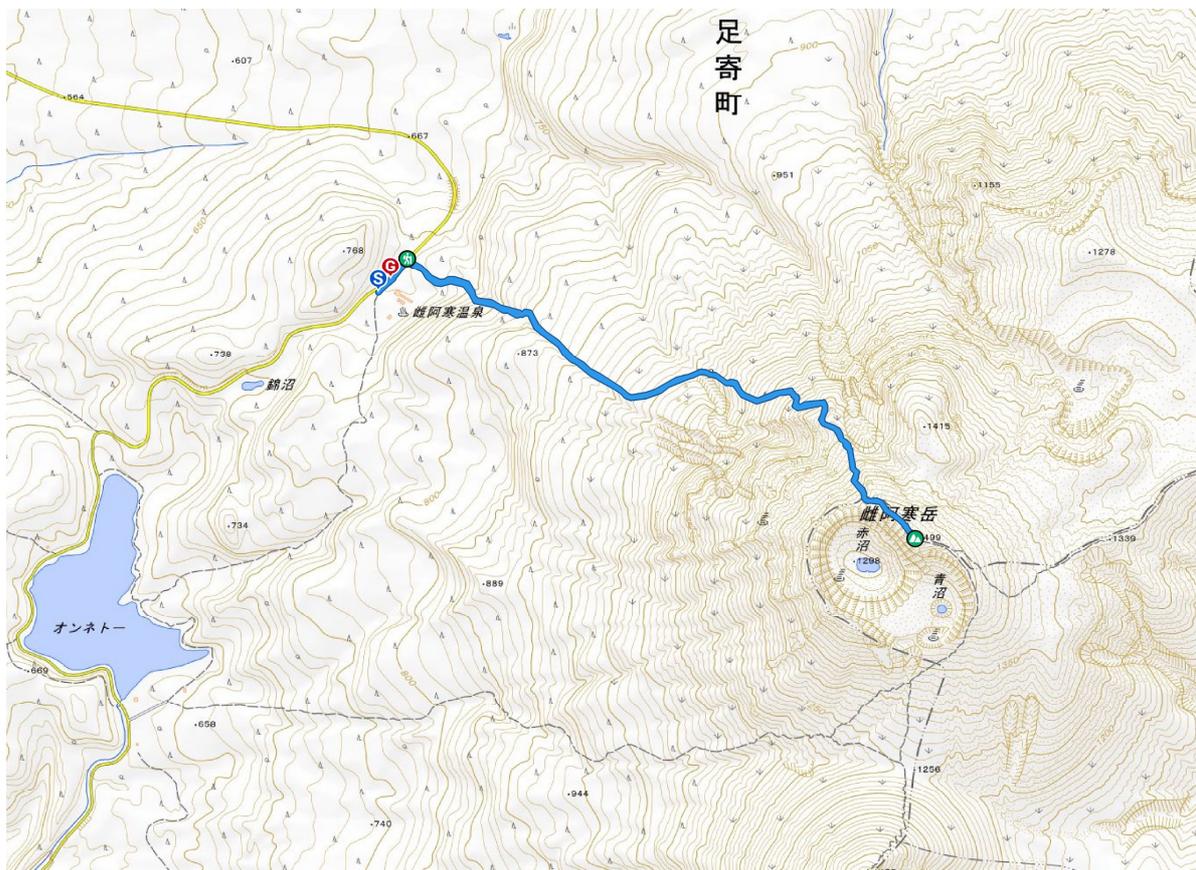
当日は福岡空港11:25発、新千歳空港13:50着、そこから空港でレンタカーの受け付けをして、護送船団方式でレンタカー店へに運ばれます。私はニッポンレンタカーの会員になっています。大手なのでややレンタカー代は高いですが、会員割引や早期予約で安くなること、また車も新しく整備が行き届いており、何より手続きが手馴れているため、スムーズに借りることが出来ます。

過去、安いだけでレンタカーを借りたら、最悪でした。北海道では高速道路を利用した長距離移動を強いられるので、やはり安心できる大手のレンタカー店が一番です。

レンタカーを借りた後は、一路、今晚の宿がある足寄に向かいます。足寄までは約200km、3時間弱のドライブです。知らない土地を運転する、これもまた楽しみの一つです。

さて、飛行機を使った登山では宿選びが重要になります。先の飛行機と同じように、登山は天候に左右されるため、前日キャンセル可能な宿を選びます。基本的には、ビジネスホテルがそれに該当し、旅館などはキャンセル料がかなり前から発生することが多いため、選択肢には入りません。

また原則、素泊まりとします。理由は、翌朝が早いので朝食付きでも食べられないことがないからです。宿到着後、一息して近所の居酒屋に行きましたが、足寄の町は陽が落ちると人影は無し、後々に知ったのですが、町のすぐ側でヒグマの出没が続いていたそうです。居酒屋までの往復1.6kmの徒歩移動、知らぬが仏とはまさにこの事です。



登山データ：距離 5.9km 累積標高上り 800m 登山区分 日帰り (ヤママップのデータを転記)

さて、翌日は4時に起床、4時半過ぎに宿を出発します。前日に近所のドラッグストアで食料を買っておいたため、それを食べながらのドライブです。

約1時間で雌阿寒温泉登山口に到着、途中、ヒグマやエゾシカとの遭遇を期待したのですが、出会えたのは道路を横切るエゾリスだけでした。

雌阿寒岳の登山は、距離も短く、それほど急登もなく、また基本的にヒグマはいないと言われているので気楽に登れます。

さすが、北海道の山、樹林帯を少し歩くとすぐに森林限界となり、周囲の展望が得られます。この広大な大地を眺めながらの登山は、北海道ならではの風景です。

のんびり歩きながら、山頂に到着、山頂からの風景は素晴らしい！阿蘇山ほどの異世界感はないですが、火山の雰囲気存分に味わえる山でした。



登山口駐車場としてはかなり立派です



登山口まで少し歩きます、いかにも道東の雰囲気



雌阿寒岳への登山口



火山の山を再認識させる注意喚起の看板



最初は樹林帯ですが



すぐに樹高は低くなります



振り返ると北海道の大自然



目指す山頂は近い



ハイマツと岩の登山道



見事な風景です



目の前には阿寒富士



雌阿寒岳 山頂標



まさに火山の山



地球の息吹を感じます



オンネトーから見る雌阿寒岳と阿寒富士



オンネトーの標識

下山後は、登山口の側にある雌阿寒温泉で汗を流しました。この温泉、源泉かけ流しでめちゃくちゃ熱い、しかも過去一番の硫黄臭で、帰路、空港に到着してもまだ硫黄の匂いが取れない状況でした。温泉には注意書きがあり、30分以上の入浴は禁止、過去に亡くなった方もいるとかいないとか。ちなみに、個別の洗い場（シャワーや水道の蛇口など）はないので、源泉と水のでる唯一の蛇口を使って混ぜ合わせ、かけ湯するしかありません。私が入った時は登山後すぐの午前10時頃、誰もいない湯船に一人のんびり浸かり、何もない不便を感じる贅沢と北海道の大自然の恵を満喫しました。尚、早めに新千歳空港に到着したので、ご当地ラーメンを食べ、お土産を買い帰宅しました。北海道にある日本百名山は9座、あと5回は行かなければならないので、今後も北海道を存分に楽しみたいと思います。



登山口に温泉があるのはありがたい



温泉横の水路は白濁し硫黄臭が強い



レンタカーには鹿避け笛が装着



北海道はラーメン旨し